

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年7月15日（火）

2 確認箇所

- ・物揚場周辺（図1）
- ・1号機北東（図1）

3 確認項目

- （1）物揚場排水路、D排水路及びA排水路（出口周辺）の状況
- （2）陸側遮水壁ブライン供給配管等の保護カバー設置状況

4 確認結果の概要

（1）物揚場排水路、D排水路及びA排水路（出口周辺）の状況

福島第一原子力発電所構内には、震災前から主要な排水路としてA排水路、BC排水路、K排水路及び物揚場排水路が設置されている。東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故以降は、汚染水等の漏えいリスクや1～4号機建屋周辺に流れ込む雨水による浸水リスクの低減を目的とし、放流口または排水経路の変更及び排水の放射能モニタリング等が行われている。

今回は、これら排水路のうち放流口が構内北側に設置されている物揚場排水路、D排水路及びA排水路の状況について確認した。（前回確認：物揚場排水路：令和3年10月27日、D排水路：令和5年9月5日、A排水路：令和5年4月4日）

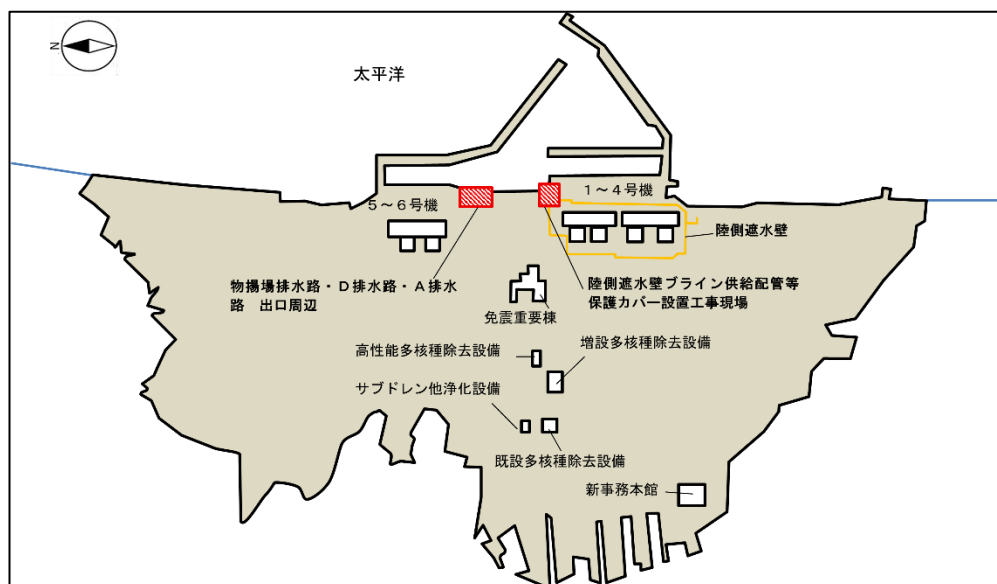
- ・物揚場排水路の放流口に廃棄物等の堆積はなかった。また、閉止ゲートの手前には、放射能連続測定装置（A系とB系の2系列）が設置され、排水の放射能濃度が監視されていた。（写真1）
- ・D排水路の放流口に廃棄物等の堆積はなかった。また、放流口付近には流量計が設置されるとともに、上流側には物揚場排水路と同様に放射能連続測定装置が設置されていた。（写真2）
- ・A排水路の放流口に廃棄物等の堆積はなかった。また、D排水路と同様に放流口付近には流量計が設置されていた。（写真3）
- ・物揚場排水路、D排水路及びA排水路を経た排水は港湾内に放流されていた。港湾内にはオイルフェンスが設置されており、油流出に対する事前措置が講じられていた。（写真4）
- ・確認した範囲において、港湾内への廃棄物及び油分の流出はなかった。

（2）陸側遮水壁ブライン供給配管等の保護カバー設置状況

東京電力では、地下水が原子炉建屋等に流れ込むことで生じる汚染水の量を減らすため、陸側遮水壁（凍土方式）を設置して、汚染水発生量の低減対策を実施している。陸側遮水壁は、1号機から4号機の原子炉建屋やタービン建屋等を囲い、西側（山側）から東（海側）に向かって流れている地下水を遮水している。

一方、陸側遮水壁のうち、1号機北東（物揚場付近）の冷媒配管（以下「ブライン配管」という。）は日本海溝津波防潮堤の外側に位置しているため、この配管を津波から保護するカバーの設置が進められている。今回は、この保護カバーの設置状況について確認した。

- ・1号機北東に設置されたブライン配管には、鋼製保護カバーの設置が進められていた。（写真5）
- ・確認当時は、重機による掘削作業が行われていた。（写真6）
- ・確認した範囲において、ブライン配管からの液漏れ等はなかった。



（図1） 福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1①）物揚場排水路放流口



（写真1②）物揚場排水路閉止ゲート



(写真 1 ③) 物揚場排水路放射能測定装置



(写真 2 ①) D 排水路放流口



(写真 2 ②) D 排水路の状況



(写真 2 ③) D 排水路放射能測定装置



(写真 3) A 排水路流量計



(写真 4) 排水先の港湾内の状況



(写真 5) 保護カバー設置工事の状況



(写真 6) 保護カバー設置工事の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。